UEBER DIE DREI ARTEN DER SUBGATTUNG OYAMIA (PLECOPTERA).

VON

HANJIRO OKAMOTO.

(Mit Tafel II)

Oyamia 亞屬の三種に就て

岡 本 半 次 郎

(第 二 圖 版)

Oyamia 亞屬は、F. Klapálek 氏 (Über die Arten der Unterfamilie Perlina aus Japan, p. 14—Bull. intern. l'Acad. Sci. Bohême, 1907) の創設せし處にして、其特徴を上記論文の第二頁に記せる、Übersicht der Gattungen und Untergattungen 中より綴り合すれば、大約次の如し。

Drei Punktaugen. Beim Männchen der 5. Dorsalring schildartig erweitert, und hinten stark ausgeschnitten, wodurch zwei dreieckige, an der Wurzel unter den basalen Teil unterschobene Abschnitte entstehen; der 10. Dorsalring in starke Fortsätze verlängert, welche ihn überragen, und bildet jederseits einen doppelten klauenartigen Fortsatz. Die weibliche Subgenitalplatte bogenförmig.

K 氏は本特徴の下に(本特徴が屬として價値あるや否やに就ては暫く論究を措く)二新種を—— Oyamia gibba 及 O. seminigra —— 發表し、前種に對しては比較的詳細なる記載を揭げ、後種には之に反して單に前種との僅少なる相違點を記するに止めたり。

予は札幌博物學會報第四卷第二號(一九一二年發行)に發表したる Erster Beitrag zur Kenntnis der japanischen Plecopteren に於て、當時 3♂, 2♀ の僅少なる標本によりて查定を行ひし結果より、

K氏の二新種は、K氏の掲示せし相違點のみにては、兩種を別種とする價値なきものと信じ、兩種を同一種に取扱ひ、seminigraを gibba の異名となしたり。

然るに頃日、朝鮮平壤の土井寛暢氏採集にかゝる、及朝鮮總督府勸業模範場所藏の並に、一九一三年以來予が集め得たる多數の Oyamia 亞屬に屬する標本を驗するに當り、前に同物異名と認定せしは、全く予が同定を誤りしものにして、明かに兩種はK氏の分類せし如く別種たるを確認すると共に、新に朝鮮産の一標本は、全く兩種と別種にして、而もその新種なるを知るに至れり。以下三種に關する記載を試み、併て三種の重要なる相違點(肢部の構造)を表示せんとす

1. Perla (Oyamia) gibba Klp. (第二版第三、六及八圖)

Klapálek, 1907: Bull. intern. l'Acad. Sci. Boh., XII, p. 14, Fig. 15 (A, B et C), 16.

頭部黑色。M線眞黑。額胼淡赤褐にして、三日月乃至半月形を呈す。兩鬚黑褐乃至黑色にして、上唇暗黑なり。觸角黑褐、其基部黄褐にして第一節黑色なり。前胸黑色。中後兩胸は黑褐乃至黑色。脚黑褐乃至黑色にして、後腿節の裏面には平行せる細き、二本の縱黄褐線を有するを普通とす(該線の判然せざる個體あり)。翅黄褐乃至褐色。前縁に沿ひて翅の中央部に達する、一淡黄線を走らす。翅脈暗褐にして、前縁脈及前縁横脈は淡黄なり。後翅の脈は前翅のものより淡し。腹部黄褐、尖端濃し。尾毛は濃黄褐を呈す。

前胸背は四角形を呈し、其後縁は前縁より僅に短し。兩翅の亞前縁室に五乃至六個の横脈あり、徑小脈は結節 Anastomosis の外方に二乃至三枝を出し、徑脈と徑小脈間に、翅端に近く、普通一横脈を有す。♂の鞍狀を呈する第五腹背板の後縁は三角形狀に深く刳截せられ、その截片 Abschnitt は三角形狀を呈し(第二版第三圖)、側面より之を見れば、其尖端頗る尖る(第二版第六圖)。第十腹節の突起物 Fortsatz は叉狀を呈し、上杆は肥大にして牛角狀を呈し、下杆より少しく長し(第二版第三、第六及第八圖)。♀の亞臀垂 Subgenitalplatte は僅かに弦形を呈し、その後縁の中央極めて僅に但し稍廣く凹陷す。

	♂	♀
體長	20-25 m.m.	25-28 m.m.
前翅長	22-28 „	28-32 „

分布

山口	1 ♀	一九一〇年四月下旬	芝川又之助氏採
箕面	1 ♂	一九一二年六月十五日	同氏採
箕面	1 ♀	一九一三年六月十九日	同氏採
鞍馬	1 ♂, 2 ♀	一九一四年六月三十日	野平安藝雄氏採
青森	1 ♀	採集月日不明	西谷順一郎氏採
新發田	1 ♂	同前	畠山久重氏採
渡瀬	2 ♂	同前	向川勇作氏採
京都	1 ♀	同前	鈴木元次郎氏採

2. Perla (Oyamia) seminigra Klp. (第二版第一,四及九圖)

Klapálek, 1907: Bull. intern. l'Acad. Sci. Boh., XII, p. 15.

本種と前種との相違點を、個條別に列記すべし。

1. ♂, ♀ とも、體長及翅長前種より遙かに短し。

2. ♂の第一腹節より第四腹節に至る背板は黒褐乃至黒色なり。♀の腹部(先端を除き)は黒褐なり。脛節は黒褐なり。

3. ♂ の第五腹背板にある截片は、前種同様三角形狀を呈するも、その尖端の上面に一瘤起あるを以て(第二版第一圖)側面より之を見れば、尖端叉狀を呈す(第二版第四圖)。第十腹節にある叉狀の突起物の上杆は大なるも短く、下杆は上杆に比して細きも遙かに長し(第二版第一,第四及第九圖)、而て上杆はその背面凹陷し、凹陷部恰も端艇形を呈す(第二版第九圖)。

4. ♀の亞臀板は弦形を呈し、その後緣の中央凹陷せず。

	♂	♀
體長	15-17 m.m.	19 m.m.
前翅長	16-18 „	22 „

分布

信濃(天龍河畔)	1 ♂	一九一四年五月二十七日	千野光茂氏採
東京	1 ♂	採集月日不明	中原和郎氏採
青森	1 ♂	同前	西谷順一郎氏採
岐阜	1 ♂, 1 ♀	同前	採集者不明

附記　Klapálek 氏は gibba と seminigra とを、主として色彩の相違により區別せり。即ち上記兩種の相違點の2(但し脛節黒褐の記事なし)の他に、a) 前軀(頭胸兩部の意)眞黒色 b) 尾毛概して gibba より濃く c) 翅は脛脈に沿ふて前種より暗色等の記載あるも、此等の諸點は兩種の主なる特徴と認め難く、その重要なる特徴は、♂の第五腹節及第十節にある突起物の構造、並に ♀ の亜臀垂の形なりとす。予が所藏にかかる青森産の一標本は、以上の特徴により査定すれば、明かに seminigra に屬するも、その色彩は全く gibba に同じきものあり。色の濃淡殊に乾燥標本にありて、變化し易き色彩の相違のみにより種を鑑別するは、カツゲラ類の場合特に其當を得ざること極めて多し。

3. Perla (Oyamia) coreana n. sp.

Pl. II, Fig. 2, 5 et 7

3 ♂♂. Kopf oben mattschwarz, hinten lichtbraun, schwärzlich gewölkt; Zwischenraum der Stirnschwielen, hinteren Punktaugen und Augen gelbbraun Punktaugen rötlich, Stirnschwielen dunkelgelbbraun, M-Linie tiefschwarz. Antennen schwarzbraun bis schwarz, am Basaldrittel mit Ausnahme des ersten Basalgliedes gelbraun. Maxillartaster schwarzbraun, Labialtaster dunkelgelbbraun, das Endglied schwarzbraun. Pronotum mattschwarz, Meso- und Metanotum glänzend schwarzbraun bis schwarz, Unterseite des Bruststückes ganz schwarz. Abdomen gelbbraun, das 1. bis 4 heller; Cerci gelbbraun. Beine lichtgelbbraun; Schenkel an den beiden Enden (Vorderschenkel nur oben an der Basis), Schienen an der Spitze und Basis, und Tarsen schwarz gefleckt. Flügel hellgelbbraun mit hellgelben Vorderrandstreifen. Nervatur hellgelbbraun mit Ausnahme der Kosta, Subkosta und Queraderadern im Kostalfelde, die hellgelb sind.

Pronotum trapezoid, nach hinten schwach verschmälert, vorn etwa 1.2 breit wie lang; Verhältniss des Vorder- und Hinterrandes 5 : 4. Im Subkostalfelde des Vorderflügels ausserhalb der Subkosta 3–4 Queradern; Sector radii der beiden Flügel mit zwei Aesten ausserhalb der Anastomose; zwischen Radius und dem 1. Ast der Sactor radii keine Querader. Zwei Abschnitte des 5. Dorsalringes kurz und klein, fast warzenförmig. Der obere Fortsatz des 10. Ringes

viel kleiner und kürzer als der untere.

Körperlänge	13 mm.
Vorderflügellänge	18 mm.
Grösste Vorderflügelbreite	5 mm.

Hab.—Korea (Seiho-san), 3♂ leg. K. Doi am 30/V, 1920. Typen in meiner Sammlung; Korea (Koryo), 1♂ leg. C. Inouye am 5/IX, 1918.

Nach der Form und Färbung ist diese Spezies ähnlich Perla (Togoperla) Matsumurae Okam. aber der Bau des 5. Dorsalringes und der Fortsätze des 10. Ringes ist ganz verschieden.

以上予が記せし三種の特徴により、各種を容易に區別し得べしと雖、gibba と seminigra とは色彩により査定を試むるは却て誤を起す因となるべし。唯 coreana は兩種とは可成色彩を異にし寧ろ他亞屬の一種則ち Perla (Togoperla) Matsumurae に近きを知る。從つて Oyamia 亞屬の三種に就き同定を試みんと欲せば、必ず♂の腹節の構造に注意を拂はざるべからず。以下♂の腹節の構造を再記し之を表示し以て本稿を終る。

	1) gibba	2) seminigra	3) coreana
a.	♂の第五腹背板の後縁は三角形狀に深く刳截せられ、その截片は三角狀を呈し、側面より之を見れば、其尖端頗る尖る	♂の第五腹背板の後縁は三角形狀に刳截せられ、その截片亦三角狀を呈するも、その尖端の上面に一瘤起あり、側面より之を見れば截片の尖端叉狀を呈す	♂の第五腹背板の後縁は稍四角形狀に淺く刳截せられ、その截片乳頭狀を呈す
b.	第十腹節の突起物は叉狀を呈し、上杆は肥大にして牛角狀を呈し、下杆より少しく長し	叉狀の突起物の上杆は大なるも短く、下杆は上杆に比して細きも遙かに長し、上杆はその背面凹陷し、凹陷部恰も端艇形を呈す	叉狀の突起物の上杆は短小にして、下杆は長く且つ肥大なり

圖　　解

第一圖　Perla (Oyamia) seminigra の腹端背面(擴大)
第二圖　Perla (Oyamia) coreana の　同　上
第三圖　Perla (Oyamia) gibba の　同　上
第四圖　Perla (Oyamia) seminigra の腹端側面(擴大)
第五圖　Perla (Oyamia) coreana の　同　上
第六圖　Perla (Oyamia) gibba の　同　上
第七圖　Perla (Oyamia) coreana の第十腹節の突起(擴大)
第八圖　Perla (Oyamia) gibba の　同　上
第九圖　Perla (Oyamia) seminigra の　同　上